



どっこいしょー、どっこいしょ (斗賀野小学校運動会 南中ソーラン)

# さかわ *Sakawa* 議会だより

48  
2011.11.1

発行 高知県佐川町議会

9月定例会

contents 目次



佐川・酒蔵ロード劇場

22年度決算 借金は減少、貯金は増加 2

通学路、安全点検すべき(一般質問) 8

がれき置場設置、順番違う(一般質問) 15

下限面積2反にすべき(あの質問のゆくえ) 18

## 22年度決算

総額3億600万円の黒字決算

# 一般会計・特別会計決算を認定

## 町の借金は減少、貯金は増加

決算総額は歳入(収入)が前年度より約6億8845万円少ない120億6102万円、歳出(支出)は116億6982万円、前年度より6億3669万円の減少、歳入・歳出とも減となった。

### 一般会計

町の主な事業を行う一般会計は、歳入で前年度より4億828万円少ない68億1316万円、歳出では4億7754万円少ない65億3778万円となっている。

### 病院事業

病院事業会計は、経常収支で7742万円(前年度70万)の黒字で大幅な増額だが、主な要因は、給与費の減少と入院患者数の増加による収益増と思われる。事業収支では単年度7990万円の黒字となっている。累積欠損金は7億730万円となった。

### 水道事業

水道会計においては、単年度で886万円の黒字となり、対前年度比529万円増、これは前年度営業費用のうち浄水関係の修繕費321万円、資産減耗費269万円が臨時的経費であったことによるもの。

### 町の借金

町債(借入金)の状況は、一般会計では4億6152万円借入れ、10億7434万円(元金と利息)を償還(返済)し、22年度末の未償還元金は57億2319万円となっ

### 町の積立金

基金(町の貯金)の状況は22年度中の積立額が6億5708万円、取崩額は2億2213万円で、22年度末現在高は40億2455万円となり、21年度より4億3495万円の増となっている。

ている。特別会計を含む町全体の未償還元金は82億5956万円となっている。

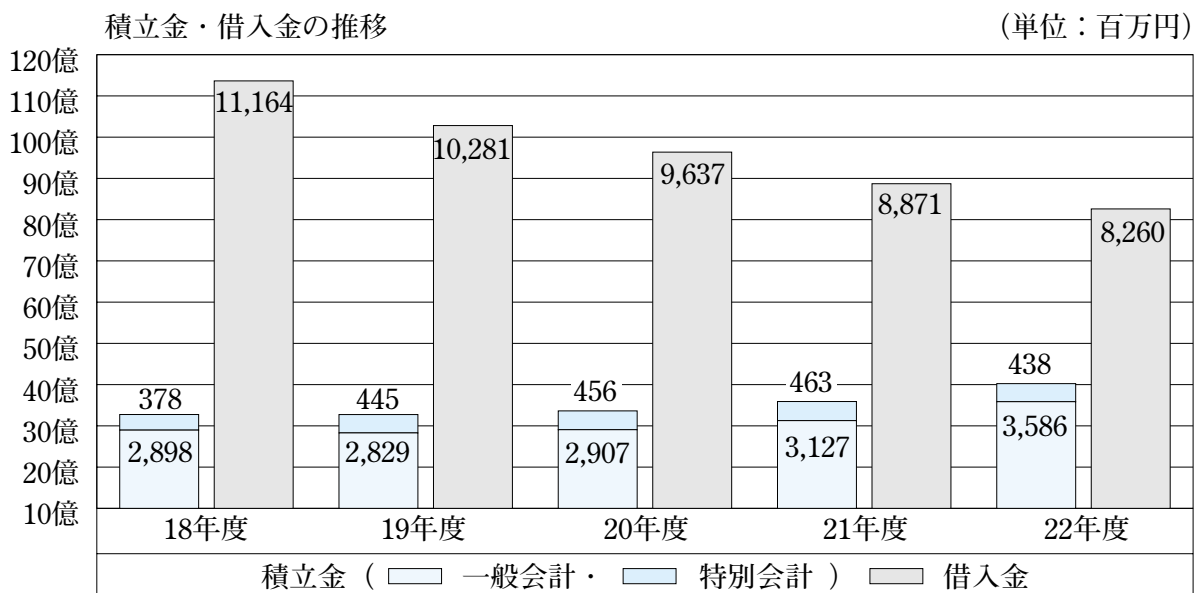
# 22年度各会計の決算状況

総額 1 1 6 億 6, 9 8 2 万円を認定

(単位:万円)

| 会 計 名            |               | 決 算 額      |            |        |           | 採決結果             |
|------------------|---------------|------------|------------|--------|-----------|------------------|
|                  |               | 歳 入        | 歳 出        | 翌年度繰越額 | 実質収支額     |                  |
| 一 般 会 計          |               | 68億1,316万  | 65億3,778万  | 8,522万 | 1億9,016万  | 反 対 2            |
| 特<br>別<br>会<br>計 | 老人保健          | 1,220万     | 1,220万     | 0      | 0         | 賛<br>成<br>全<br>員 |
|                  | 国民健康保険        | 17億4,138万  | 17億4,138万  | 0      | 0         |                  |
|                  | 介護保険          | 14億9,801万  | 14億9,801万  | 0      | 0         |                  |
|                  | 住宅新築資金等貸付事業   | 3,536万     | 787万       | 0      | 2,749万    |                  |
|                  | 学校給食          | 5,490万     | 5,490万     | 0      | 0         |                  |
|                  | 特定環境保全公共下水道事業 | 589万       | 589万       | 0      | 0         | 反 対 1            |
|                  | 後期高齢者医療       | 1億9,698万   | 1億9,441万   | 0      | 257万      |                  |
|                  | 農業集落排水事業      | 2,386万     | 2,386万     | 0      | 0         |                  |
|                  | 水道事業          | 1億4,296万   | 1億3,410万   | 0      | 886万      |                  |
|                  | 病院事業          | 15億3,632万  | 14億5,942万  |        | 7,690万    |                  |
| 総 合 計            |               | 120億6,102万 | 116億6,982万 | 8,522万 | 3 億0,598万 | 賛<br>成<br>全<br>員 |

※水道・病院事業特別会計は収益的収支を記載



※借入金は、特別会計・一般会計の合計金額を表しています。

町民1人当りの  
貯金は29万円 借金は59万円

# どう活かされたみんなのお金

## 歳出総額 116億6,982万円

市町村の財政状況を表で表す①財政力指数 ②経営収支比率 ③公債費比率で見ると

①財政力指数 0・31%

一般的な行政の仕事を、行うのに必要な費用を、どれだけ自前で賄っているかを示すもの。1以上なら、一般的に「財政力豊か」とされます。

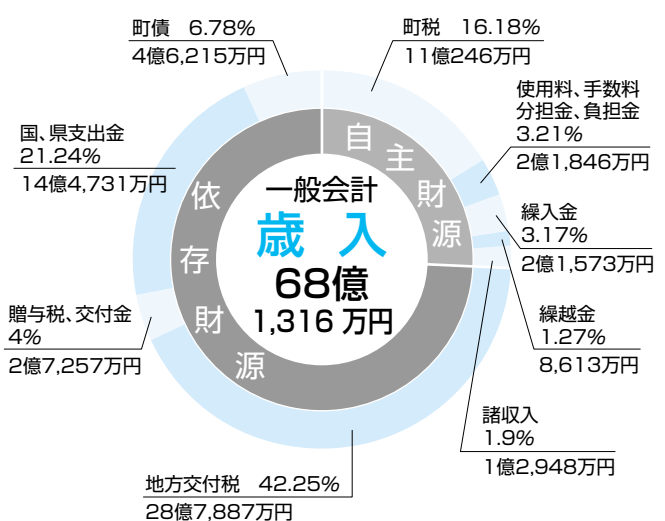
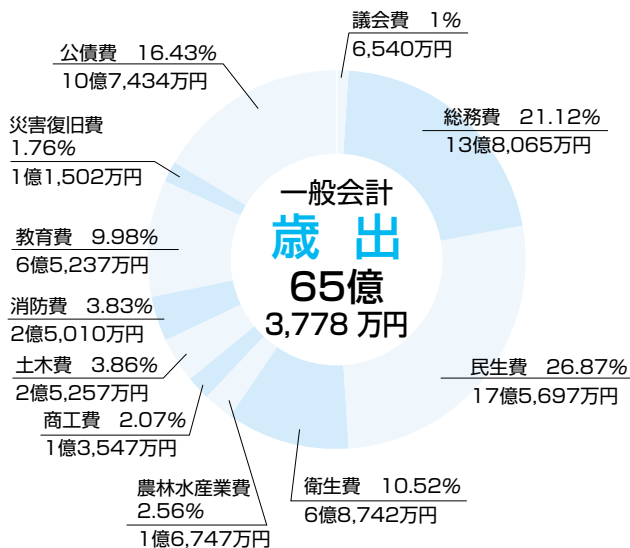
②経営収支比率 86・0%

人件費などの経常経費が、使い道が限定されない一般財源にどれくらいの比率で占めるかによって財政の弾力性を示すもの。75%以下が適正とされています。

③公債費比率 14・5%

一般財源をどれだけ公債費で賄っているかを示すもの。いわゆる自治体の借金の割合で、10%を超えないことが望ましいとされています。

以上から判断すると佐川町の財政比率は、昨年よりも減ってはいるが、引き続き厳しい財政運営を強いられていると言えます。



### 監査意見(要旨)

監査委員  
西 山 毅  
松 浦 隆 起

平成22年度決算は、前年度と比較して歳入で4億828万円、歳出4億7754万円と大幅に減少している。

歳入では、景気の低迷で町税の落ち込みや、交付金事業の減、佐川中学校建設事業の完了による国庫支出金の減が、大幅に減少した要因だ。

歳出では、民生費は、児童手当制度から子ども手当制度に移管されたことや地域介護福祉空間整備事業等の増加により大幅に増加している。

一方、衛生費、教育費、諸支出金は、病院事業特別会計への貸付金補助、佐川中学校建設事業、社会教育施設の改修事業、土地開発公社解散に伴う補助等が終わったことが大幅に減少した要因だ。



また、未収金は一般会計、特別会計を含めて2億7706万円で前年より2031万円減少しており、租税債権管理機構扱いでの徴収、滞納整理課の徴収実績が上がっているが、差し押え等法的措置を講ずる必要がある。

今後も税収等収入の大幅な伸びが期待できない。引き続き効率かつ効果的な行政運営、財政健全化に努め、町民の福祉向上にさらに努力されたい。

## ソニアの税、未済分 減免するのか

中村議員 固定資産税の未済額は7000万円あり、その中でソニアの未済額は1800万円くらい含まれており、かなりのウェイトを占める。町長から、ソニアの未済額について将来的に減免を考えているユアンスの答えがあつたが、いかがなものか。

また、ソニアの土地、設備機器は差し押さえ対象になるのか。

榎並谷町長 滞納分について分納ということ協議しており、なんらかの形でちつと支払いをしてもらう。

## 22年度 決算質疑



文化の拠点、今後どうなる

減免するということは、一度もどこの場所でも言っていない。

岡本滞納整理課長 国税徴収法では、差し押さえる対象となる。

## 桜座、今後の運営 対応どうする

岡村議員 桜座の運営基金が今年度、800万円取り崩されている。あと5年で底をつくと思うが今後の運営はどういった対応をとるのか。

川井教育長 現在、桜座の管理、運営費用が年間約4300万円かかっており、3000万円を越す経費を毎年投入している。今後、財政面、文化行政の推進面の折り合いが課題となる。指定管理者制度への移行も当然検討課題になる。

## 剰余金 多すぎるのでは

森議員 予算の10%に当たる剰余金が出ており、多すぎる。これは、執行部の財政健全化への努力のたまものだ。ただ、本来、町民の要望に応え、やるべきことをやり、その上で剰余金ができることが本来ではないか。財政的にお金がないから住民に我慢してくれと言いつつ、余ることは問題だ。

榎並谷町長 年間予算をきちつと組んで、その執行については適正にというのが基本だ。自主財源が12%であり、単独で何もかもやっていく状況ではない。余ったから要望のあることをやっていないということではない、将来に備えての蓄えも必要だ。

## 町勢要覧 どう生かす

今橋議員 今まで本町を売り出すパンフレットがなかったが、今回3000部の町勢要覧ができた。この素晴らしい要覧をどう生かしていくつもりか。

榎並谷町長 今回、今までのようなお仕着せのものでなく職員の意見も取り入れ、写真、資料集めに時間をかけ完成した。職員は営業マン、宣伝マンの意識をもってほしい。

## 国保の広域化で どう変わる

坂本議員 国保事業の広域化の流れが出てきている。安易に飛びつくべきではないが、広域化した場合、財政調整基金や一般財源の繰り入れなどは、どう変わっていくのか。

横山課長 現在、国、県の情勢を見ても、基金、一般財源の繰り出しがどういった取り扱われ方をするかは、言及されていない。



# 9月定例会で決まりました

9月定例会は、9月6日より9日までの会期で開かれました。

平成22年度決算の認定のほか、23年度補正予算をはじめ、条例改正など議案10件、報告8件、同意案1件、議員発議による意見書2件を審議し、採決の結果、賛成全員および賛成多数で全件可決しました。

平成23年度9月補正予算

(単位：万円)

| 会 計 名   |             | 補正額   | 補正後の額    |
|---------|-------------|-------|----------|
| 一 般 会 計 |             | 4,552 | 66億7,298 |
| 特別会計    | 国民健康保険      | 104   | 17億8,129 |
|         | 住宅新築資金等貸付事業 | 2,749 | 3,538    |
|         | 介護保険        | 2,520 | 16億2,323 |
|         | 後期高齢者医療     | 257   | 1億9,664  |

## 報告案件

### 財政健全化判断

#### 比率等の報告

地方公共団体の財政健全化に関する法律（財政健全化法）に基づき報告されたもので、一般会計等の実質赤字比率、連結実質赤字比率は黒字のため数値がなく、実質公債費比率15・8%、将来負担比率も数値がなく早期健全化基準を下回っている。

また、水道事業・病院事業・農業集落排水事業・特定環境保全公共下水道事業特別会計においても、いずれも資金不足はなく、健全であるとの報告を受けた。

## 工事請負契約締結

町道市ノ瀬線

道路改良工事

(契約の方法)

指名競争入札

(契約金額)

4377万7650円

(契約の相手)

有限会社 大栄建設

(賛成・全員)

## 人 事

### 教育委員

栗田 眞一 氏

佐川町本郷耕1501番地1

(賛成・全員)

## 9月補正予算ピックアップ

### 災害対策

#### 備蓄備品購入

158万円

東日本大震災の被災地へ、救援物資として提供した毛布300枚の補充をするもの。

### 被災者支援システム

#### 導入委託料

52万円

災害発生時の住民基本台帳のデータをベースに被災者台帳をつくり、被災状況を入力することで、罹災証明書の発行から支援金や義援金の交付、救援物資の管理などを一元的に行うシステムの導入を図るもの。

### 要援護者台帳

#### システム整備事業

500万円

災害時において、一人で避難が難しい高齢者や要介護者などの名簿登録を行う要援護者台帳を、紙台帳からパソコンによる管理に移行するもの。

## 延長保育事業

283万円

尾川中央保育園において、新たに延長保育事業を始めるもの。

## がけくずれ 住家防災対策事業

1090万円

台風6号の影響により5件追加するもの。

## 木造住宅耐震化 支援事業

150万円

耐震化改修費補助金の限度額、1戸当たり60万円に30万円を上乗せするもの。



大きな被害になる前に対策を

## 意見書

### 国にももの申す

総理大臣をはじめ、  
関係機関に意見書を提出

## 国民健康保険財政 への国庫負担割合 を医療費総額の 45%に戻すことを 求める意見書

(提出者 岡村統正)

国民皆保険制度がスタートして以来40数年を経て、現在、国保には国民の約4割が加入している。

近年、国保加入者の平均所得は低下し、滞納世帯の資格証明書や短期保険証の発行も増加し、病気になるっても医療が受けられず手遅れで死に至る事例も増加している。

これは1984年から国が国庫助成金を引き下げたことが決定的な要因となっている。そのため、市町村では国保税を増額せざるを得なくなった。

このように、高すぎる国保税を抜本的に解決し、国民皆保険制度を維持するために、国民健康保険財政への国庫負担割合を1984年当時の医療費総額の45%に戻すよう要請する。

(賛成・全員)

## 大規模自然災害に 対する防災対策など、住民の安心・安全を支える行政サービス の充実を 求める意見書

(提出者 氏原義幸)

東日本大震災からの復興・復興にあたり、被災地への応援派遣をはじめ、全ての地方出先機関が本省と一体となって役割を果たしている。しかし、政府は昨年、閣議決定した「アクション・プラン」にもとづき、来年の通常

国会に国の出先機関を原則廃止する法案を提出しようとしている。

政府においては国の出先機関を原則廃止する「アクション・プラン」や独立行政法人の削減・廃止を前提とする見直しは白紙に戻し、国と地方が協力し行政サービスを行っていくために、国と地方の責任と役割を再検討すること。

防災対策など、住民の安心・安全を支えるために必要な、国の出先機関の体制や機能の充実をはかり、南海地震などの大規模地震への対策や、被災した場合に迅速な復興・復興ができるように、国の出先機関の廃止や移管を行わないことを強く要望する。

(賛成・全員)

## 学校に防災倉庫、設置を

総務課長 検討したい

松浦 隆起 議員



8人が町政を問う

ここが聞きたい

大規模地震等の災害発生時、学校施設は地域住民の応急的な避難所となる。数日間、避難者がしのぐために必要な物資を備蓄する防災倉庫を設置すべきだ。

また、今回の東日本大震災においてバスケットゴール板などの非構造部材の破損、落下による被害が多く発生している。本町においても点検と対策をとるべきだ。

岡林総務課長 備蓄品は現在、役場に備蓄しており、避難所開設時に、持つていく状況だ。学校に事前に備蓄することは必要だ。防災倉庫については検討する。

川井教育長 尾川中学校、黒岩中学校の2校については、耐震設計の段階で対応を検討したい。すでに耐震補強工事が終わっている学校については、26年度以降どういった対応ができるか検討したい。

## 防災無線自動音声応答サービス

## フリーダイヤル化すべきだ

総務課長 できるだけ早く実施したい

防災無線の放送が流れたあと、電話で録音テープと同じ内容を聞くことができる音声自動応答サービスが本町においても行われているが、あまり知られていない。利用者が増えるように、ホームページへの掲載やPRステッカーの作成、フリーダイヤルにするなど、周知徹底に取り組むべきだ。

岡林総務課長 フリーダイヤル化は、できるだけ早く実施したい。ステッカーなどについては検討したい。



防災拠点としての点検・整備が急がれる

## 通学路の安全対策

## 安全点検実施すべきだ

教育長 学校と協議したい

通学路などの安全に対する要望が学校・PTA側から上がってきた場合、県道、国道については、町長を通じて、正式な要望として陳情を行うべきだ。

また、事前に危険を回避するために通学路の安全点検も実施すべきだ。

川井教育長 国、県への要望については、今後要望内容を十分精査し、重要性を一定判断したい。対応策については町長と相談したい。

通学路の安全点検は、学校と協議したい。



生徒の安全確保は行政の責任



氏原 義幸 議員

22年6月議会においての斗賀野地区町営住宅建設の質問に対する答弁は、前向きに検討することであつたが、計画は進んでいるのか。  
渡辺産業建設課長 来年度において、用地取得ができれば、25年度建設を計画している。規模的には、尾川、黒岩と同じ3棟6戸を考えている。

## 斗賀野地区町営住宅

### 計画は進んでいるか

産業建設課長 25年度建設を計画

## レンタルハウス事業

### 小規模増設 補助対象にすべき

産業建設課長 県に要望続ける

レンタルハウス事業は、大規模新設が対象だが、5アール程度増設の希望がある。補助事業の対象にならないか。  
また、新規就農者が増えている。町外から本町に来て就農する人の住宅がない。支援策はないか。  
渡辺産業建設課長 小規模な増設は、対象にならない。普及所等を通じて県に要望しており、今後



大型ハウスだけでなく・・・

も続けていく。  
新規就農者の住宅は、探してもなかなか見つからないのが現実だ。これといった施策はないが、地域の方々と一緒になって探していく。

## 災害時の安否確認

### 体制はできているか

総務課長 整っているとは言いがたい

鳥取県西部地震の際、南部町では、数時間のうちに町民99%の安否が、町職員、民生委員やボランティアの組織などにより確認できたと聞いた。  
本町では、地震などの災害時における町民の安否確認体制はできているか。

岡林総務課長 本町での、安否確認は自主防災組織、部落長会、民生委員及び消防団に協力をお願いしなければならぬが、その体制が整っているとは言いがたい。南部町の先進例も参考にして、町民の安否確認が短時間でできる体制づくりに、今後努めていきたい。

#### その他の質問

○南海地震等大規模災害時における土地使  
用に関する協定書調  
印、地元への説明は。



地域の助け合いが命を救う

## 町も負担すべきだ

町長 いざという場合に支援



造成工事が完了した高北病院建設地

東日本大震災の惨状を見て、住民の意識が変わり高北病院の耐震化工事の必要性を感じている。工費が巨額であり、後世への負担軽減のために、町の一般会計からも負担すべきではないか。

森 正彦 議員



また、巨額の工事の場合、落札率が高くなってきたら、入札方法はどうするのか。

榎並谷町長 公営病院は企業会計も含めて一定のルールに従って運営していくのが基本理念であり、今、補助金を出すのではなく、いざという場合には一般行政としても支援していく。

入札方法については確たることは決めていないが、技術を持った能力のある会社が発注するのが

佐川高校

## 中高連携、どう進める

教育長 協議会立ち上げ、検討

佐川高校の生徒数が減少している。本町にとり重要な高等教育の拠点であり応援し、もり立ていくべきだ。今後、中高連携をどう進めていくのか。

川井教育長 高吾北地域における唯一の高等学校だ。昨年、佐川高校校長と国道33号沿線の教育長と話し合いを持ち、今後は、広域連携型中高一貫教育構想の実現に向けて、協議会を本年度中に立ち上げ、具体的な内容を検討する。

産業振興

## 農業主体であるべきだ

町長 産業の第一番は農業



丹精込めたユリもまもなく出荷

6月定例会で町長は、観光振興に最力を入れたこととれる答弁をした。

農業は観光産業を何倍も上回る産業であり、本町の産業育成は、農業主体として行なうべきだ。榎並谷町長 農業を捨てた観光ではなく、農業プラス観光という意味で答弁した。

本町の産業の第一番は、農業だと認識している。国、県の施策も取り入れ、これからの農業振興には精一杯、頑張っていく。

その他の質問

○酒蔵ロード劇場、今後の支援は。



片岡 勝一 議員

県の柳瀬川改修の設計は相当昔からできているが、地権者の了解が得られず、下流からではなく上流から工事を行った。現在ストップ状態が続いているが、下流方向に工事を進めることはできないか。

## 柳瀬川改修

### 下流方向に工事進めよ

産業建設課長 地元の合意、必要

渡辺産業建設課長 昭和54年に改修計画がつくられている。地権者、地元の合意がなく中止しているが、当時の計画は現在でも存続している。地権者、仁淀川中流域水害対策会議、越知町、県土木事務所とも連携をとり、地元の合意が得られた要望書を提出すれば良い結果が得られると認識している。



自分たちの町は自分たちできれいに

## 環境整備

### 春日川土手に植栽できないか

町長 河川管理者との協議必要

役場西の春日川に土砂が堆積し、草も生えている。役場内には、草花を育てるのが趣味の人もいるはずだ。自発的に駐車場の美化に取り組んでどうか。春日川の土手部分の雑草が生えている所に、植栽の許可はできないか。榎並谷町長 自分たちの住む町をよくしようとの気持ちは理解できる。しかし、土手の植樹は河川管理者との協議が必要だ。

## 佐川踊り

### 復活できないか

教育次長 機運高まれば支援

佐川には佐川の踊りがあってよいのではないか。昔、佐川踊りがあったように思うが、なぜやめたのか。復活させる機運はないか。岩本教育次長 以前は、町主催で行っていた。十数年前に踊り手の確保が困難となり廃止、現在に至っている。しかし、佐川踊りである「瑞応の盆踊り」は保存会によって継承されている。今後、復活の機運が高まれば何らかの支援を考えてみたい。



以前は盛んだった各地域での踊り

その他の質問  
○春日川にかかる松崎橋から北方向右岸の桜並木を整備できないか。

3・11大震災の原発事故で大量の放射能が漏れ出す大惨事となり、原発から撤退し自然エネルギーへの転換を、という声が広がっている。梶原町の自然エネルギーへの取り組みをどう思うか。

自然エネルギー

## メガソーラー設置の可能性は

町長 関心あるが難しい

坂本 貞雄 議員



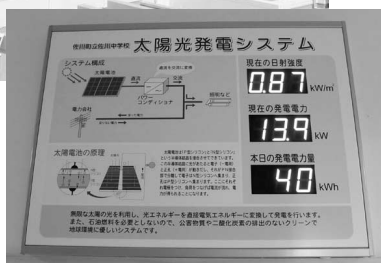
加茂末光谷へのメガソーラー設置の可能性はないか。

榎並谷町長 梶原町の取り組みは大変うらやましく感じている。自然エネルギーを最大に使うことが、世界の人としての本質と感じる。

メガソーラーについては、非常に関心を持ってはいるが、私有地への設置は難しいと感じている。



佐川中学校に設置されている太陽光発電システム



国民健康保険

## 広域化、どこまで進んでいるか

町民課長 具体的進展ない

県は、国保広域化等支援方針を発表した。高齢化に伴い医療費増加が見込まれるなど、保険財政基盤の脆弱化が進むことから広域化することともに、国民皆保険制度維持のため国の財政支援を求めている。国保広域化計画はどこまで進んでいるか。また、国の財政支援についてどう思うか。

横山町民課長 後期高齢者医療制度、社会保障・税一体改革など、先行き不透明なことが多く、県とも具体的な進展はない。

榎並谷町長 国保問題は、県、市町村の問題ではなく、国民的課題であると思っています。

加茂農村公園

## フェンス設置、誰が行う

総務課長 危険な場合は検討する

加茂地域に唯一ある農村公園に、安全のための外周フェンスがなく危ない。管理する者が設置をしなければならぬが。岡林総務課長 地域公園の管理は、その地域にお願いしている。フェンスなどの大きなものについては、危険な場合は町での設置を検討する。

その他の質問  
○ 自主防災組織の活性化、何が必要か。



フェンスのない加茂・農村公園

## 子ども議会

# 続けて開催すべき

教育長 評価を検証し、方針を決定

8月29日に子ども議会が実施された。子どもたちの質問は、地場産業や教育環境、防災対策などにわたり真剣なものであった。ただ、残念ながら、傍聴者が少なかった。今後は開催場所や日程等を考慮しながら、続けて開催すべきだ。成果と今後の方針は。

今橋 寿子 議員



子どもたちの多彩な質問に丁寧な答弁

川井教育長 質問内容を見ると、子どもたちが、しっかりと地域に目を向けていると感じた。執行部も子どもたちの意見を取り入れて対応するというものであったことから、開催目的は達成され、成果があったと考える。

今後は、学校と生徒の評価を検証し、議長、町長、執行部の評価を聞き、学校と協議の上、方針を決定したい。

榎並谷町長 緊張する場で子どもたちの勇氣に感心するとともに、中学生の目線というだけでなく、一般市民の目線だとも感じた。傍聴席が、ガラガラだったので残念であり、今後の開催については、関係者と十分な協議をして判断する。

## 東日本大震災

# 教訓、どう生かす

総務課長 減災となるよう力を傾注

東日本大震災に学んだことをどのように生かし取り組んでいくのか。

岡林総務課長 南海地震の被害想定として、家屋の倒壊、火災、土砂崩れ、山崩れ、道路の寸断が予想され、人命救助、避難所、孤立集落へのさらなる対策が必要だ。現在、各関係機関と連携して災害時要援護者登録制度を進めている。

復旧には建設業者及び電気工事組合、また、ガレキ等の仮置場として住友大阪セメント高知工場と協定をしている。また、飲料水やLPガス、私立病院等との協定にも取り組んでいる。ソフト、ハード両面の対策を講じ、極力減災となるよう力を傾注していきたい。

川井教育長 来ると言われている南海地震から児童・生徒の命を守る対策をしっかりと行わなければならない。学校施設の耐震化を着実に実行するとともに、防災教育の実践、避難訓練を定期的実施する。

その他の質問

○ 桜座の運営の改善策と進捗状況は。

○ 牧野先生生誕150年の取り組みの進捗状況は。

榎並谷町長 自治体の組織が大変重要であるので、日頃からの訓練等通じて職員の意識を高めていく。



南三陸町での活動報告を行う本町の保健師



中村 卓司 議員

## ソニア解散

### 固定資産税、減免するのか

町長 減ずることはできない

ソニアは、平成5年に開業し、現在まで一度も黒字を出すことなく、23年度には消滅しようとしている。この間に、佐川町の税金から出資された約1億8千万円全てが消え、さらには固定資産税

3千万円が未納になっている。今までの経営者会議の中で、佐川町に減免措置をしてほしいと要求されていると聞くが、ソニアが解散したあと、民間の協業組合に経営を譲渡しても、町はその意向を受け入れるつもりか。

また、水道を引くこの話も聞くがどうするつもりか。

榎並谷町長 仁淀川町、越知町から固定資産税の減免措置をしてほしいとの要求があるが、固定資産税のあり方から、減ずることはできない。町としては正しい固定資産税評価をしていると答えており、法に基づいて、再評価はしていきたいと思っている。

水道は布設しないと、はっきりと申し上げて

## 道の駅

### 次へのステップは

総務課長 可能性を探る



構想作成が待たれる道の駅（写真は奈良県平群町）

昨年、道の駅に関する第1回検討会が開かれたが、今年はまだ開かれていない。一方、民間組織ではすでに、検討委員会が開かれ、準備が進んでいる。民間組織と協力しながら進めてほしい。

次へのステップはどうなっているか。

岡林総務課長 道の駅構想作成委託業務というところで、270万円余りの予算化をしている。

経営が成り立つかどうかの可能性を探ることが必要と考えている。道の駅が本当に必要かどうかを精査する必要がある。

災害時がれき置場

### 地元への事前説明ない

町長 大変反省している

住友大阪セメントの所有する、鳥の巣、美都岐地区の鉱山跡地を災害時のがれき置場として使用することについて、事前に地元への説明がされていない。配慮が足りない。地元住民の声を受け止める、今後どう対処するつもりか。

榎並谷町長 地元の皆さんをないがしろにして蚊帳の外にする思いはなく、これなら問題ないと勝手に判断したことが発端であり、大変反省している。住民の皆さんにはできるだけ周知をしていく。まさかのときに利用した場合、行政が責任を取り対処する。



問題となったがれき仮置場への進入路

その他の質問

○ 柳瀬川水害対策、進捗状況は。

○ 太陽光利用施設を推進する考えは。



松本 正人 議員

8月23日、本町と住友大阪セメントとの間で南海地震等によるがれきの仮置場使用の協定が結ばれたが、事前に地元の鳥の巣、美都岐部落への説明がなかった。特に鳥

災害時がれき置場

## 仮置場確保、順番違う

町長 反省し、おわびする

の巣部落住民から、納得が得られるまで協定の延期をするよう口頭と文書で本町に要望がされる事態となった。

本町の「防災計画」では発災時のゴミ処理計画を作成することになっているが、その計画がなく、今回、仮置場を確保するのは順番が違う。周知のことも含め、計画に従っていれば問題は起きなかったのではないかと反省している。

榎並谷町長 事前に説明をしなかったことは反省し、おわびする。東日本の震災の惨状を見て、今回協定を結んだ。まさかのときに役立てればという単純な思いであった。被災時のゴミを想定することは難しく、計画を作成することは難しい。

町立図書館

## スペース不十分

教育長 十分とは言えない



建て替えが求められている図書館

本町の図書館で最近気のついたところがある。  
1点は、館内を照らす蛍光灯が一部を除いて消灯されている。  
2点目は、児童・生徒の夏休み期間中、図書館への自前の本や資料の持ち込みが禁止されていた。節約やスペースの問題と聞くと、電気代を気にしたり、自由研究の場として使えない。維持管理予算も足らず、スペースも不十分では、図書館とは言えない。

川井教育長 法務局であった建物を改修し、利用していることから、十分な広さとは言えない。持ち込みを禁止しているのは、多くの町民に図書館の本を閲覧することがするための措置であり、理解を願いたい。図書館の運営費は、指定管理者からの要望額を満たしてはいないが、運営に必要な額は確保されていると考える。

斗佐トンネル

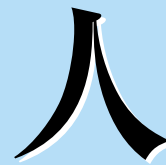
## 照明、暗い

産業建設課長 明るくなるよう取り組む

斗佐トンネル内の照明が暗いとの声を聞く。ウォーキング等で利用する人も多く、歩行者には大変暗い。照明器具は設置されているが、ほとんどが消灯している。安全のため点灯できないが、渡辺産業建設課長 町民から暗いとの声を聞いている。今より明るくなるよう取り組み、歩行者の不安を改善する。

その他の質問  
○ソニアの解散、どういった方法とするのか。  
○本町の職員数、県下最低クラスだが、それでよいのか。

わがまち



# 佐川少年柔道クラブ

わがまち「人」では、この佐川のまちで元気に活躍されている方にスポットをあて紹介します。

今回は「佐川少年柔道クラブ」の監督として活躍されている永田良助さんにお話を伺いました。

— 教え子の池絵梨菜さんが世界カデ柔道選手権大会で優勝しましたね。

そうです。あの子の素質と努力ですが、本当にうれしいですね。

— 絵梨菜さんは、何歳頃からこの道場へ通っていましたか。

兄2人とともに5歳の頃から来ていました。当時から光っていましたね。



永田 良助 さん



世界一を目指して、真剣なまなざし

— 絵梨菜さんの世界での活躍など、やっていて楽しそうですね。

活躍もうれしいですが、子どもが段々立派になることがうれしいですね。それと、子どもたちと遠征に行つて一緒に遊んだりするの楽しいですね。

— 今は、何人の子もが道場に通っていますか。

現在14人です。1学年5人くらいいればいいですが。

— 夜の指導、試合や遠征、家族の方は大変じゃないですか。

独身の頃からやっていて、息子2人も頑張ってくれて、柔道あつての家族です。もちろん家内の内助の功があつてのことですが。

— 最後にこれからの抱負をお聞かせください。

体力の続く限り子どもたちとともに柔道が続きたいですね。

ありがとうございます。この日も佐川中学校の武道場で指導されました。良い指導者が、我が町にいてくれることを、心強く感じました。これからも地域のために元気に頑張ってください。

— ご活躍を期待しています。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元気のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介下さい。  
— ご連絡は議会事務局まで。

— その間ずいぶん多くの子どもたちを指導してきたことでしょう。

昭和46年、警察官の安養寺君と始めて、もう40年になります。

— ところで、少年の道場を始めてずいぶん長いと思いますが。

全国大会で2回優勝、ベスト8以上3回、中高でも多くの選手が活躍してくれました。クラブは全国でも強豪とされています。また、礼儀の大会でも常にトップクラスです。

♡佐川に恋して♡

## 佐川町へのラブレター

■佐川町のどんなところが好きですか。

自然が豊かで、春は桜がきれいに咲き、夏には蛸も見え、周囲の山からヒグラシの鳴き声が聞こえてくるように、四季をはっきり感じ取れるところです。探せば、まだまだ

多くの自然に会えるそうですね。

■将来の夢は。

佐川町の良さを、多くの人に伝えていきたいです。人脈も広がっていききたいですね。

■趣味は何ですか。

好きな映画を見たり、ドライブで海や川など自然を見に行ったり、買い物も好きです。

■この仕事を選んだ理由はなんですか。

佐川町は、祖父母が住んでおり、幼い頃からよく訪れていました。昔から親しみのある佐川町、より良いまちづくりに携わりたいと思い、この職業を選びました。

■仕事は楽しいですか。

窓口での対応が多いので、いろいろな人たちと接することができ面白いです。

佐川町役場の新戦力、これからもがんばってください。



津野 ことみ さん

## 委員会レポート

### 小中学校の訪問調査を実施

総務文教常任委員会

委員長 徳弘初男 以下6名

5月26日、6月16日

の2日間、総務文教常任委員会は、所管事務調査として、佐川、斗賀野、尾川、黒岩の4小学校と佐川、尾川、黒岩の3中学校・学校給食調理場を訪問し、調査を行った。

各学校とも校長、教職員の協力を得て、意見交換や授業参観を行うなどの調査を行った。

主な内容では、全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、全国平均と比較すると各校によつて格差があり、それぞれの学校において課題

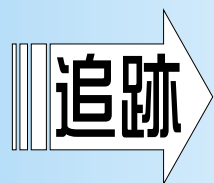
の解消に向けた取り組みがなされている。

また、学校ICT環境整備事業により導入したパソコンや電子黒板などを活用した授業も積極的に実施されているようである。

給食の残食については、給食指導の成果もあり、各校ともほとんどないとのことであった。

また、給食費の収納状況は、滞納繰越額が大幅に減少し、現年末収額も大幅に減少し成果が上がっている。





# あれはどうなったが？



基幹産業である農業を守れ

## 下限面積2反にすべき

(平成22年12月定例会)

本町では農地取得の条件として3反以上の耕作面積が必要となっている。高齢化が進み農地が荒地になっているが、せめて2反くらいにして、荒れた農地でも買ってもらい、畑にしてもらうことが必要ではないか。

(西村清勇 議員)

## 農業委員会事務局長 答 弁

## 農業委員会総会で議論

現在、下限面積は農業委員会によって設定できると規定されている。下限面積の決定は農業委員会総会でないといけない。総会に報告し、議論したい。

## 農振農用地の見直し後、検討

23年度中に行われる、農業振興地域整備計画の見直しのあと、下限面積について、再度検討することとされている。

どう  
なった

あなたが選んだ議員の  
仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は12月6日午前9時開会  
予定です。傍聴においでください。

## 議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。  
読後のご感想、ご意見をお寄せください。

|      |       |
|------|-------|
| 委員長  | 岡村 純正 |
| 副委員長 | 坂本 貞雄 |
| 委員   | 松浦 隆起 |
| 委員   | 片岡 勝一 |
| 委員   | 森 正彦  |

2011年3月、東日本では、大災害が起きました。わが町でも昨年の3月末に遅霜が降り、農作物に被害がありました。しかしながら、人は必ずそれを乗り越えて生きています。そしてより以上に復旧、復興、繁栄を果たしていきます。これまで発展を遂げてきた私たちが、地球環境への影響を考え、温暖化対策として取り組んだのが、小泉政権時のクール・ビズだったと記憶しています。議会においても、7月の臨時会からクール・ビズへの取り組みがはじまりました。その結果、9月議会は大分涼しく息苦しさも和らぎ、熱い議論ができました。これからも、良いことは見習い、良くないことは見直し、心豊かな町づくりができるよう、お互いに努めたいものです。

片岡

## 編集後記